



Human Metabolome Technologies, Inc.

2025年6月期 中間決算説明資料

2025年2月

ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社 (6090)

本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

目次

1. 2025年6月期 中間決算報告
2. 中期経営計画進捗
3. 2/13開示内容について

参考資料

目次

1. 2025年6月期 中間決算報告
2. 中期経営計画進捗
3. 2/13開示内容について

参考資料

全社的に高収益サービスの売上が増加した結果、
対前年同期比30%以上の増益となる。

中間期 最高売上・利益を達成

(単位：百万円)
(表中の△は損失・百万円未満切捨て)

	2024年6月期中間期	2025年6月期中間期	増減額	増減率
売上高	632	684	51	8.1%
営業利益	71	104	33	46.2%
経常利益	70	94	24	34.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	71	93	22	31.2%
1株当たり当期純利益	12.02	15.75	3.73	31.0%

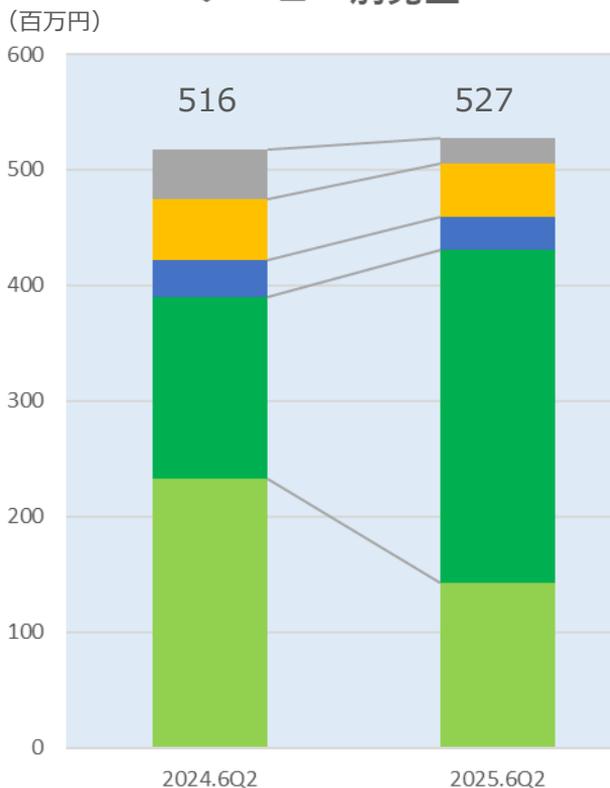
(単位：百万円) (表中の△は損失・百万円未満切捨て)

セグメント売上高	2024.6月期 中間期	2025.6月期 中間期	増減額
先端研究開発支援事業	516	527	11
ヘルスケア・ソリューション事業	115	156	41
合計	632	684	51
セグメント費用	2024.6月期 中間期	2025.6月期 中間期	増減額
先端研究開発支援事業	422	451	29
ヘルスケア・ソリューション事業	138	128	△ 10
合計	560	580	19
セグメント利益	2024.6月期 中間期	2025.6月期 中間期	増減額
先端研究開発支援事業	94	76	△ 19
ヘルスケア・ソリューション事業	△ 23	28	51
合計	71	104	33

高感度網羅解析
拡販継続

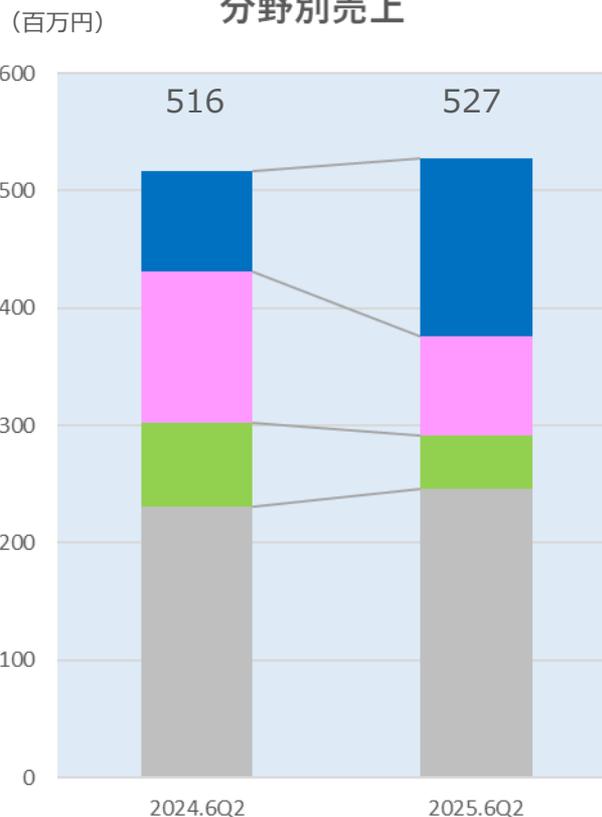
**国内はアカデミア、食品などを中心に大幅増加するも
欧米ではアカデミア、製薬での受注・売上が減少。
高感度網羅解析サービスがけん引。**

メニュー別売上



■ 網羅解析 ■ 高感度網羅解析
■ ターゲット解析 ■ 提携サービス
■ その他

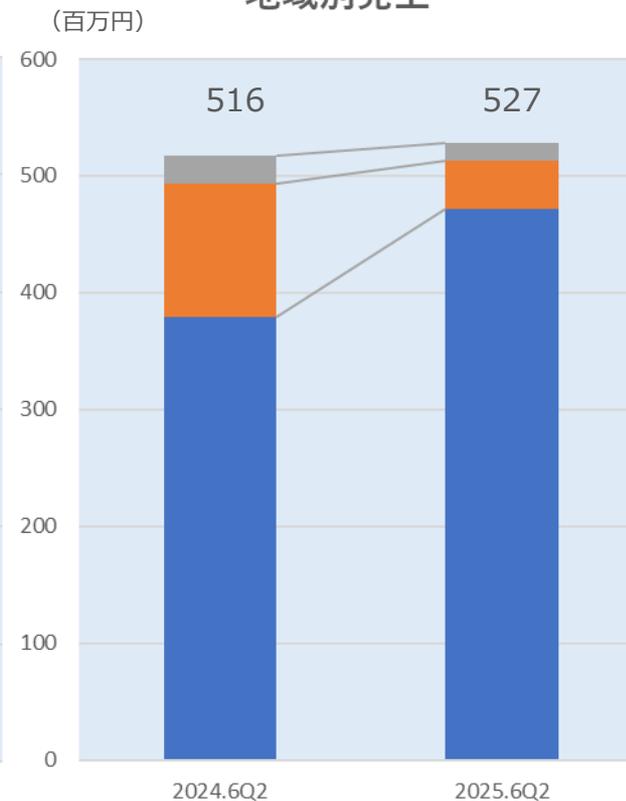
分野別売上



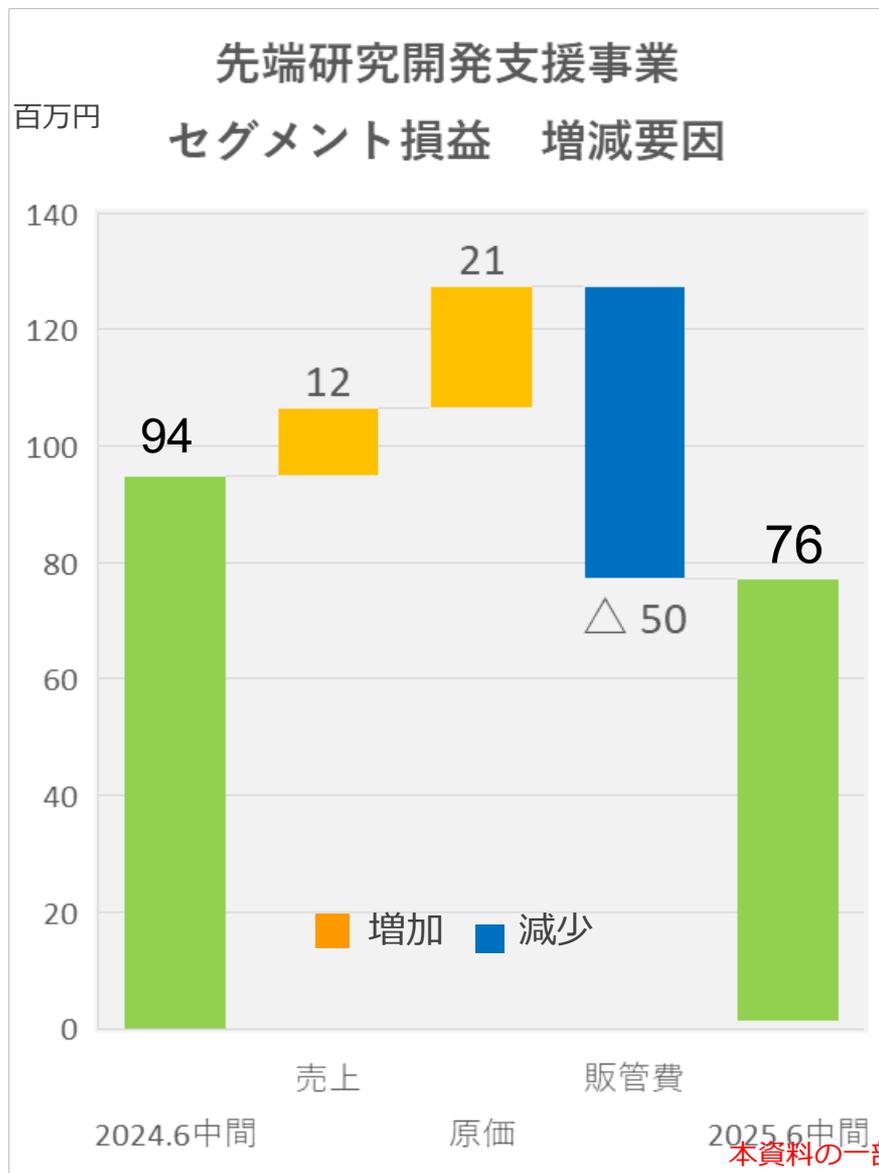
■ 大学・公的研究機関 ■ 化学企業
■ 製薬企業 ■ 食品企業

© Human Metabolome Technologies, Inc.

地域別売上



■ 日本 ■ 欧米 ■ アジア



セグメント利益 19百万円減少

売上増

- 国内は食品・アカデミアなどを中心に大幅増加
- 欧米は低調

原価減

- 高付加価値の自社サービスの売上が増加し、仕入が減少した結果、売上原価は減少

販売管理費増

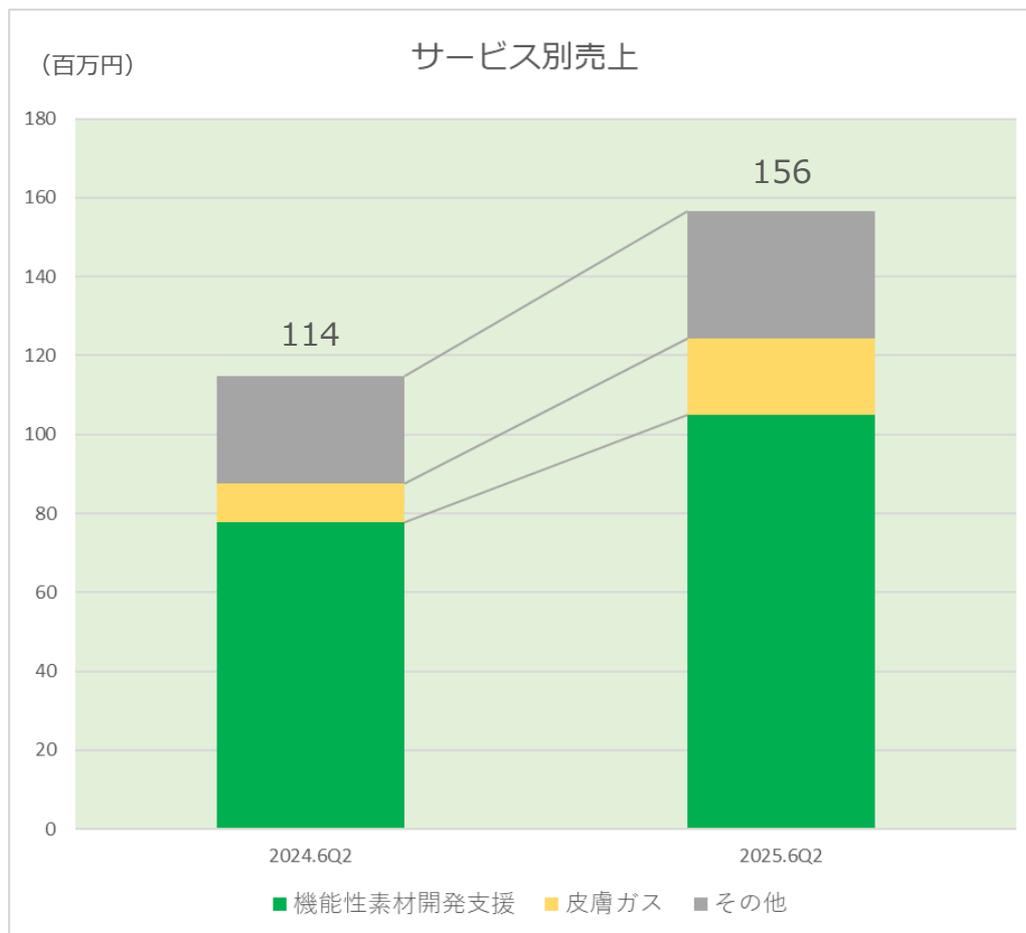
- 「バイオものづくり」生産性向上支援サービスの研究開発に開発リソースを集中したため、開発費が大幅に増加

本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

機能性素材開発包括支援サービスが増加。

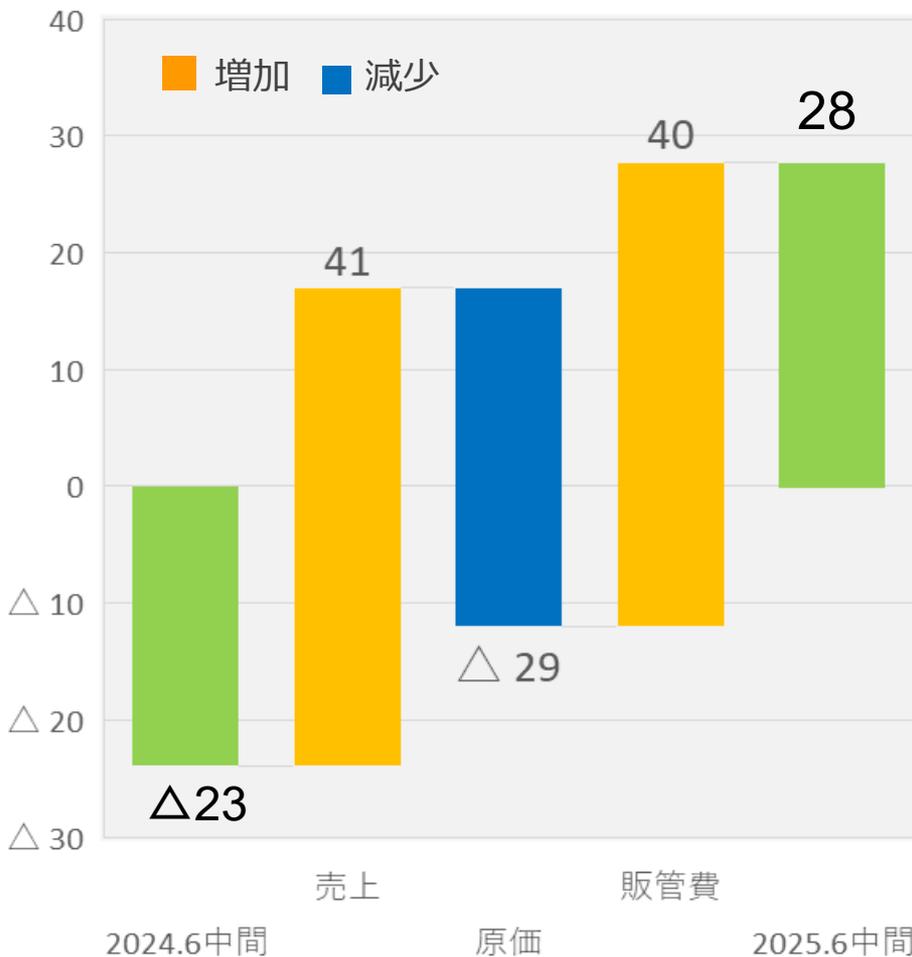
ヘルスクレーム予測及び関連サービスの売上が増加

売上 + 36% 41百万円増



ヘルスケア・ソリューション事業

百万円 セグメント損益 増減要因



セグメント利益 28百万円

売上増

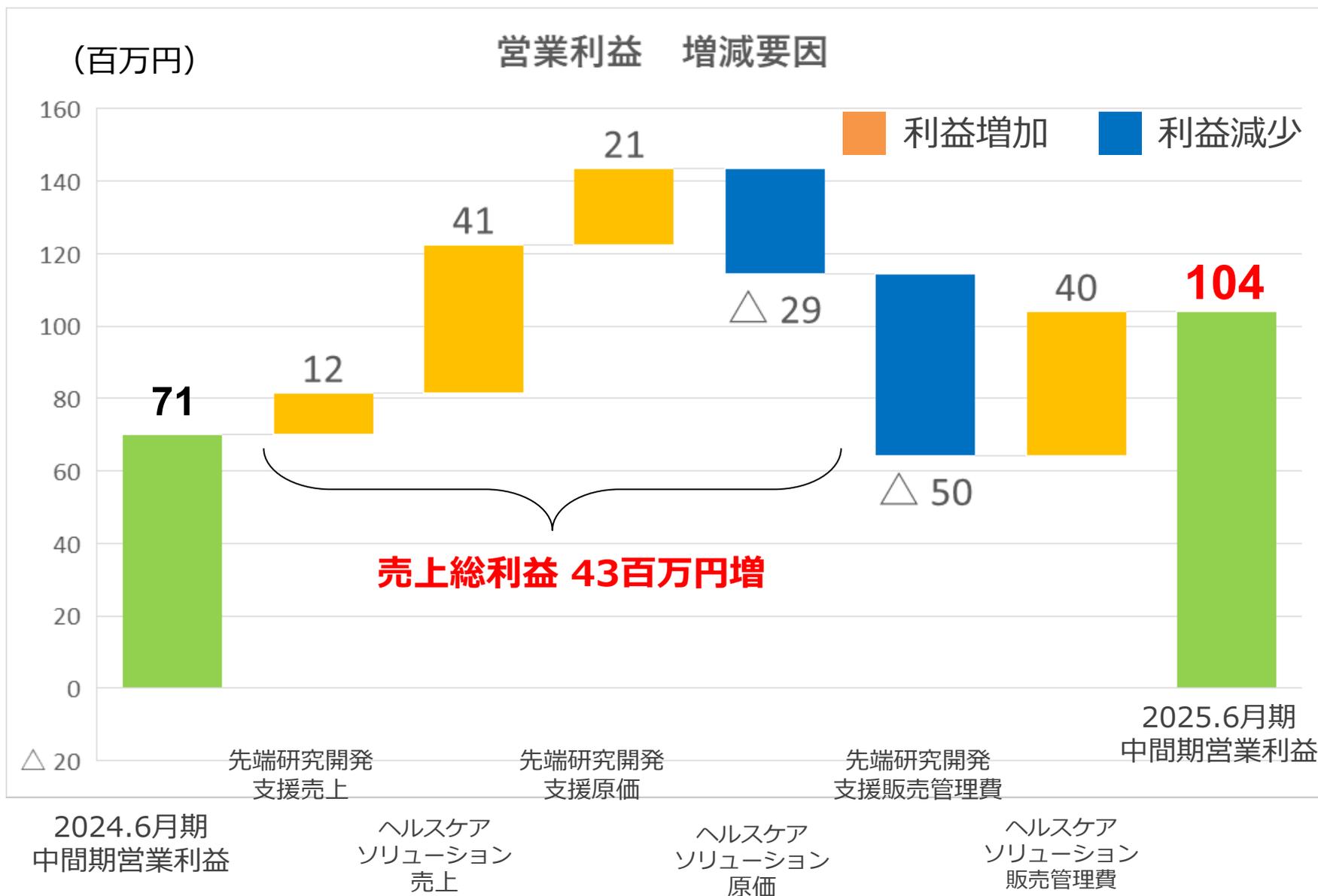
- 機能性素材開発支援サービスを中心に増加

原価増

- 売上増に伴う原価増

販売管理費減

- 機能性素材開発支援サービスの開発が終了。
- 開発リソースを先端研究開発支援事業に振り向けたため、開発費が大幅に削減



当初の公表予想からの修正はございません

➤ 売上総利益増加

- ・機能性素材開発包括支援サービスの拡販継続
- ・新解析サービスの上市・拡販
- ・海外事業強化

➤ 将来の成長に向けた研究開発投資・人的資本投資を継続

- ・「バイオものづくり」生産性向上支援サービス開発
- ・人的資本に対する投資を継続

(単位：百万円)

	2025年6月期	(ご参考) 前期 2024年6月期	差額
	金額	金額	金額
売上高	1,500	1,345	+155
営業利益	260	220	+40
経常利益	280	241	+39
親会社株主に帰属する当期純利益	280	243	+37
一株当たり当期純利益	47円36銭	41円14銭	+6円22銭
一株当たり配当	15円	15円	-円

目次

1. 2025年6月期 中間決算報告
2. 中期経営計画進捗
3. 2/13開示内容について

参考資料

2020.6-2023.6 経営基盤整備

- ・売上増加
- ・不採算部門の再編
(欧州・バイオメディカル 子会社)
- ・先端研究開発支援事業 生産性向上
- ・ヘルスケア・ソリューション事業の立上げ
- ・研究開発の推進、効率的な運用

→ **安定利益確保・財務体質強化・株主還元開始**

2024.6-2026.6 成長基盤構築

- ・機能性素材開発支援等を中核としてヘルスケア・ソリューション事業を拡大
- ・研究開発分野を選定し投資を継続
- ・生産性向上のためのデジタル化推進
- ・顧客満足度向上に向けた新メニュー開発

→ **新規事業による利益拡大・飛躍的成長に向けた新規分野での研究開発の推進**

2026.6以降
企業成長

2024年6月期～2026年6月期 成長基盤構築

新規事業による利益拡大・飛躍的成長に向けた
新規分野での研究開発の推進

(単位：百万円)

	2023年6月期	2024年6月期	2025年6月期	2026年6月期
売上高	1,299	1,345	1,500	1,600
営業利益	210	220	260	300
経常利益	232	241	280	300
親会社株主に帰属する 当期純利益	285	243	280	290

◎ヘルスケア・ソリューション事業の売上大幅増
提携サービス（外注）の拡大

○海外製薬企業の売上増加
高感度網羅解析と特注対応が増加

×国内アカデミア・製薬企業での売上減少
コロナ特需の剥げ落ち
+ 製薬大型案件の終了

国内売上において限界利益率の高い自社解析売上が減少し、仕入が増加したことで売上原価増加
⇒ **売上総利益が微増にとどまる**

自社解析売上の増加に注力

**A機能性素材開発
包括支援サービスの
拡販**
・自社サービス拡張と
拡販

**B革新的な
新サービス導入**
・中分子メタボロミクス

C海外事業強化
・営業力強化
・グローバル企業
フォーカス

D新規事業創造
・バイオモノづくり
生産性向上支援サービス
開発

- 国内製薬企業K様
 - “ペプチド スキャン アドバンスト を来年度以降検討しています！”

- 国内食品企業O様
 - “ペプチド スキャン アドバンスト、大変興味があります。サンプル対象が増えると嬉しいです”

- 国内国立大学K先生
 - “バイオマーカー探索において、ゲノムは知り尽くされてきており、ペプチド スキャン アドバンスト は大変魅力的。デモデータにて検出されたペプチドは、免疫系研究にとってとても興味が高い”

- 米国私立大学M名誉教授
 - (和訳) “患者の血漿を用いたペプチドミクス分析ができる事に非常に興奮しています。ペプチドの重要性は広く認知されているものの分析法は限られるため、CE-MSを用いたHMTの新しい分析方法による結果をぜひ見てみたい”

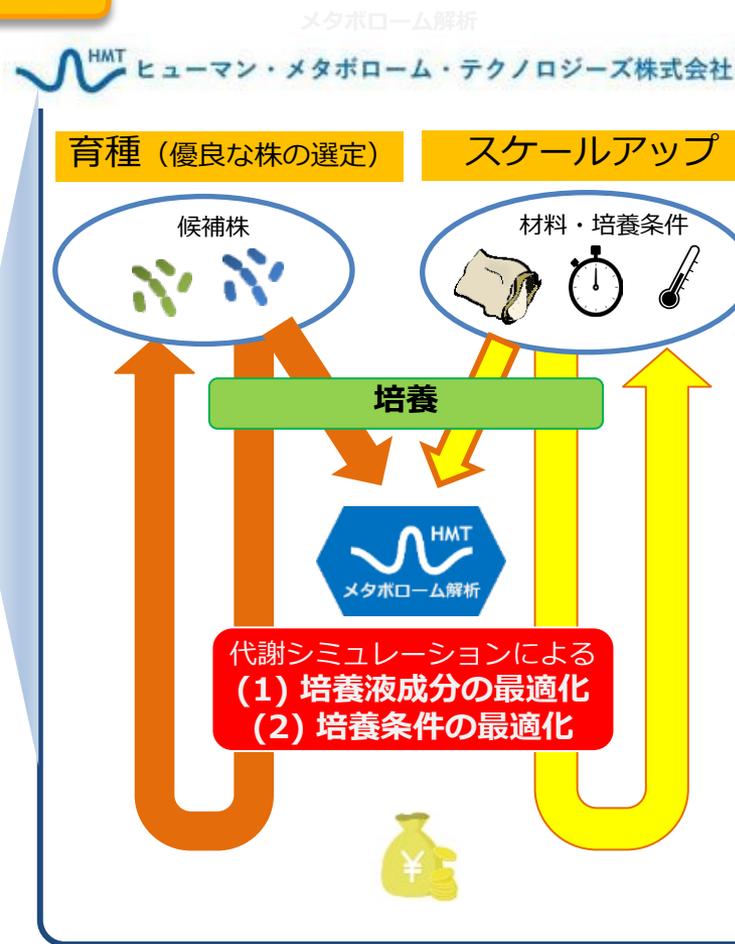
フェルメクテス株式会社との資本業務提携(2024.9)

FERMECUTES

- **ビジョン** 人類と動物、植物、そして地球が共存できる未来を実現する
- **ミッション** 地球(人類の未来)のために、微生物の能力を引き出す
- **商品・サービス**
 - ・納豆菌を発酵培養した高タンパク質な「納豆菌粉」、納豆菌の「培養・加工ノウハウ」「育種菌株」
- **市場規模・事業規模**
 - ・機能性タンパク質食品の世界市場 7600億円

	主原料	副原料	生産プロセス	製品
納豆菌粉	納豆菌	糖成分 窒素成分 リン成分 微量成分	 <p>培地作成 → 培養 → 分離・乾燥 「バイオマス発酵」</p>	 Kin-pun

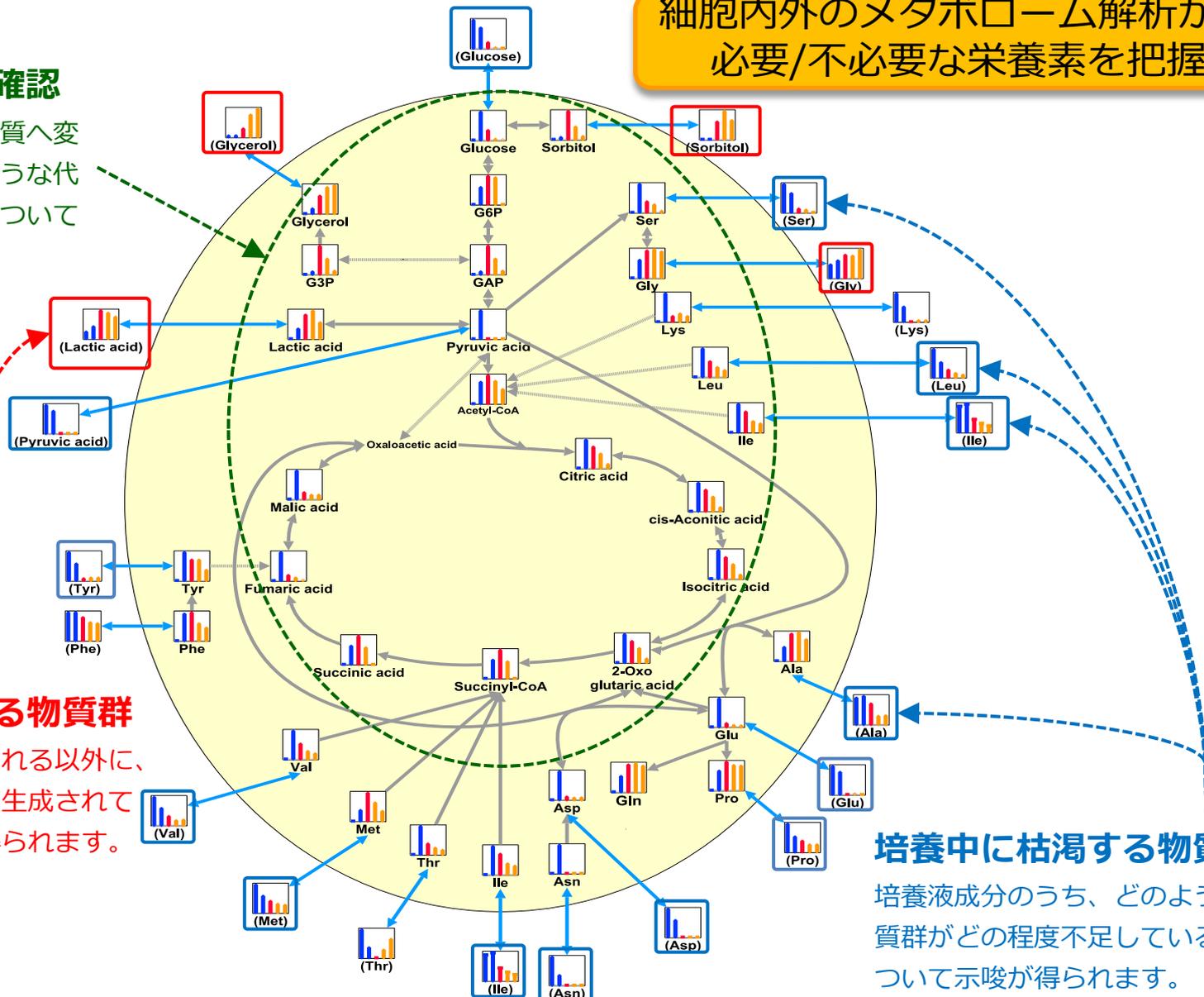
フェルメクテス株式会社提供資料(2024.8)より転載



細胞内外のメタボローム解析から
必要/不必要な栄養素を把握

細胞内代謝変化の確認

細胞内にて原料が目的物質へ変換される過程で、どのような代謝変動が生じているかについて示唆が得られます。



培養上清に蓄積する物質群

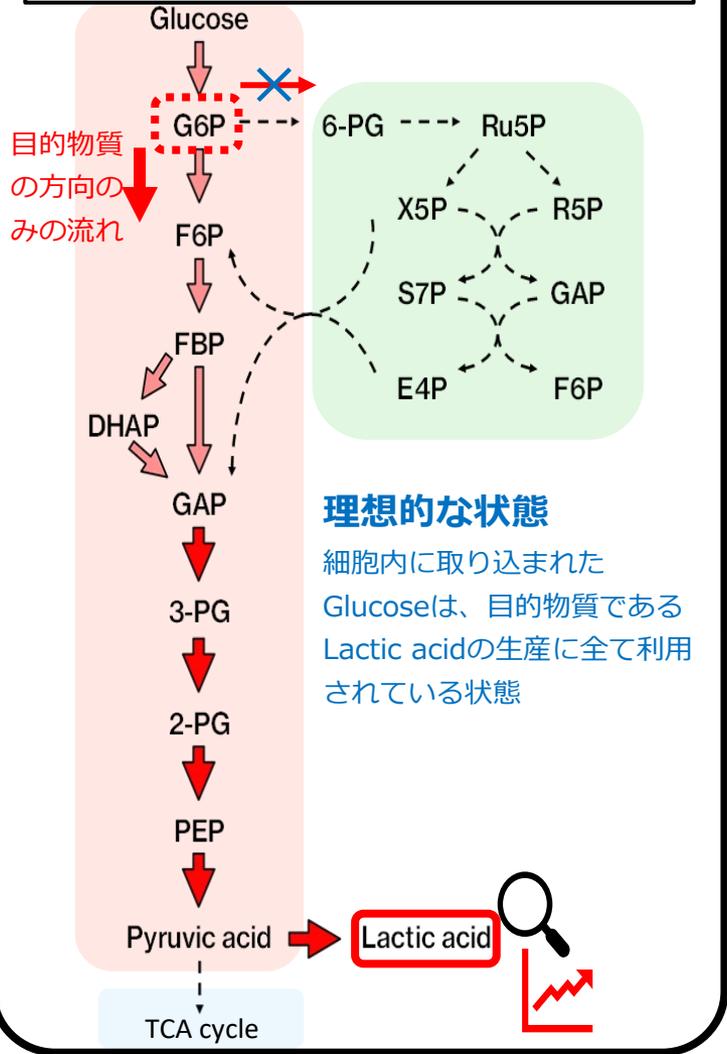
原料が目的物質へ変換される以外に、
どんな副産物がどの程度生成されて
いるかについて示唆が得られます。

培養中に枯渇する物質群

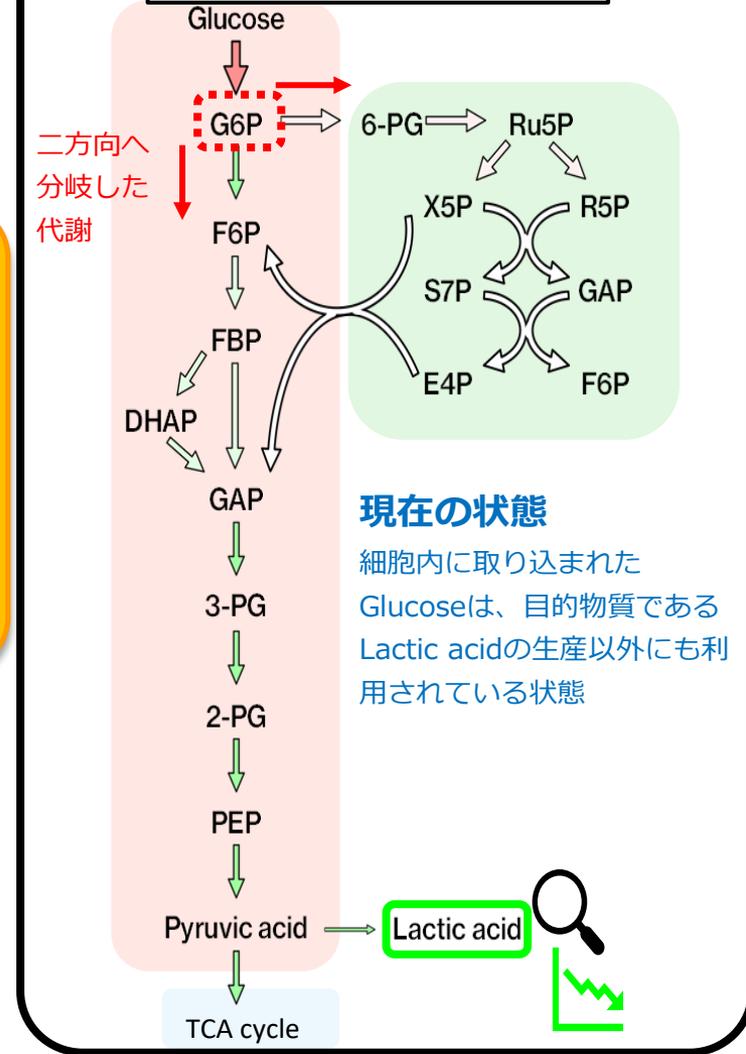
培養液成分のうち、どのような物質群がどの程度不足しているかについて示唆が得られます。

本資料の一部またはすべての複製・再配布は、お断りいたします。

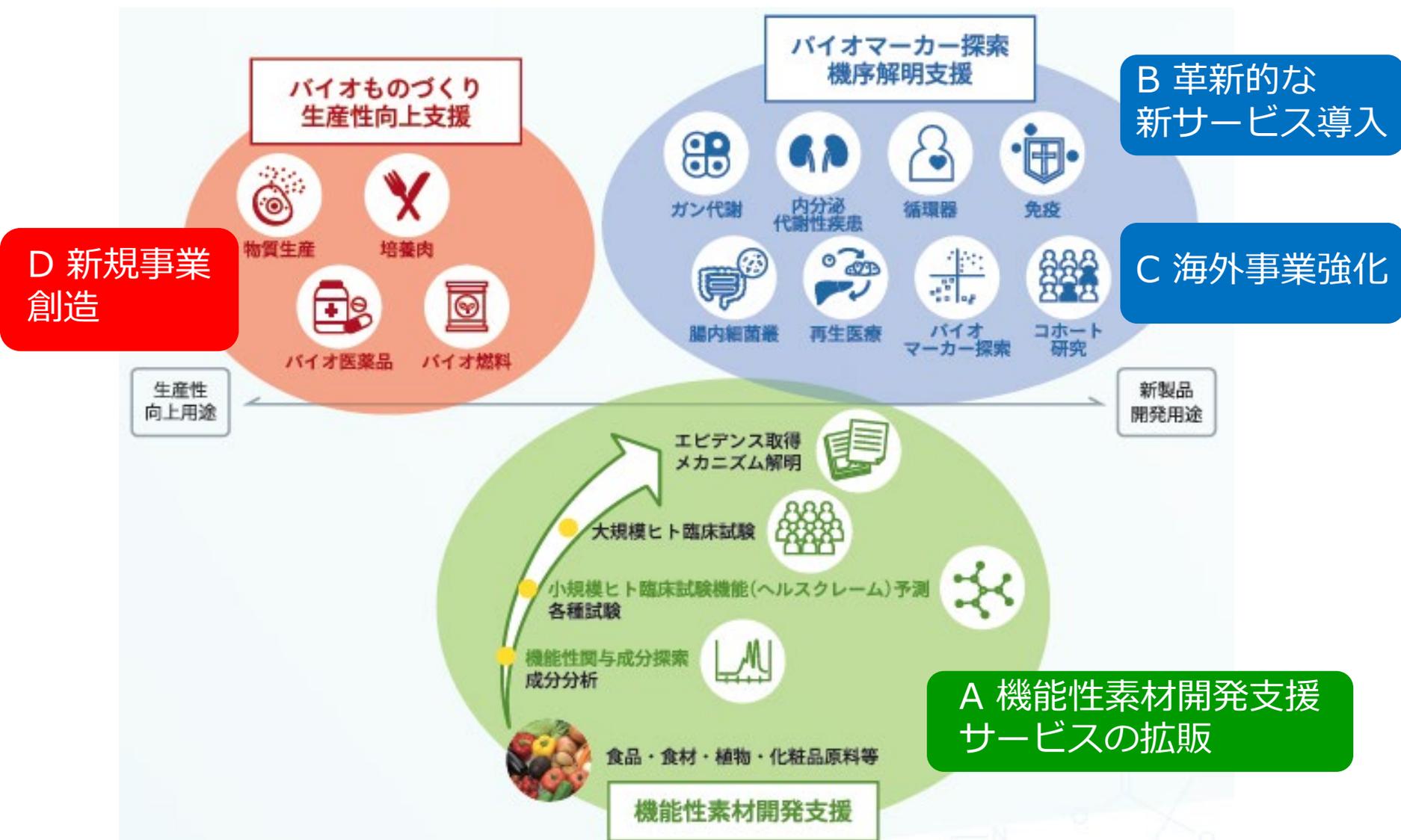
理論的 maximum 収量のフラックス分布 (FBA によるシミュレーション)



現状のフラックス分布 (MFA による解析)



理想と現状の代謝フラックスの比較から
生産効率化の目標設定と改善点を把握



(*) CAGR : 年平均成長率

本資料の一部またはすべての複製・転載は、お断りいたします。

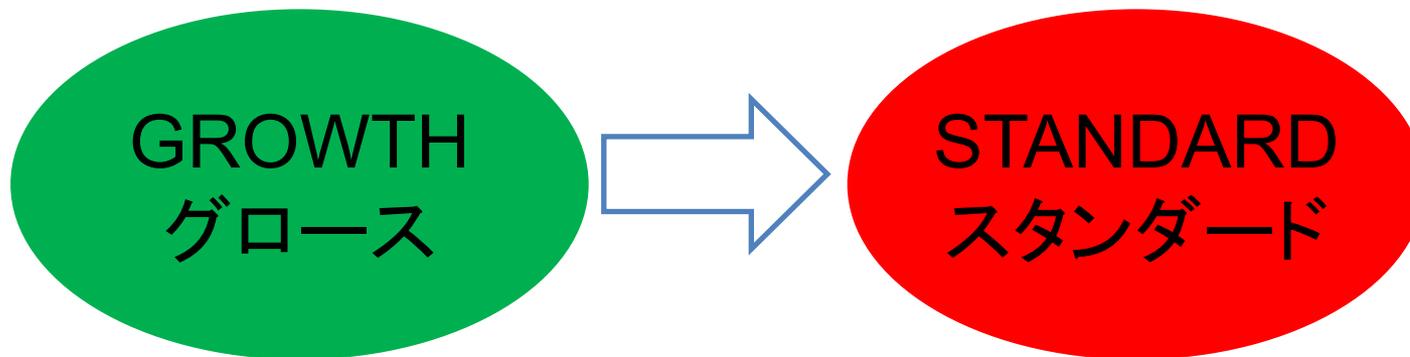
© Human Metabolome Technologies, Inc.

目次

1. 2025年6月期 中間決算報告
2. 中期経営計画進捗
3. 2/13開示内容について

参考資料

次の成長を見据えて、適した市場への移行



- 社会的信用と知名度向上
- より高度なガバナンス水準
- 持続的な成長と株主還元

自己株式取得に係る事項を決議(2025年2月13日)

- 取得株式総数：130,000株
(発行済株式総数(自己株式を除く)の2.2%)
- 取得株式総額：上限 1億円
- 取得期間： 2025年2月14日～2025年12月31日
- 取得理由： 株主還元と資本効率の向上及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の実行のため

参考資料



ヒューマン・メタボローム・テクノロジーズ株式会社

設立年月日：2003年7月1日

資本金：1,488百万円

取締役（社内）：大畑 恭宏（代表取締役社長）

紙 健次郎（取締役）

創業者：（2024年12月現在）

富田 勝 慶應義塾大学名誉教授

曾我 朋義 慶應義塾大学教授

主な事業内容：先端研究開発支援事業

ヘルスケア・ソリューション事業

売上高（直近）：1,345百万円

従業員数（連結）：57名（博士：12名）

（2024年6月現在）

本社：山形県鶴岡市覚岸寺字水上246-2

東京事務所：東京都中央区新川2-9-6

シュテルン中央ビル5階

子会社：HMTアメリカ アメリカボストン

当社の企業理念・パーパス

未来の子供たちのために、

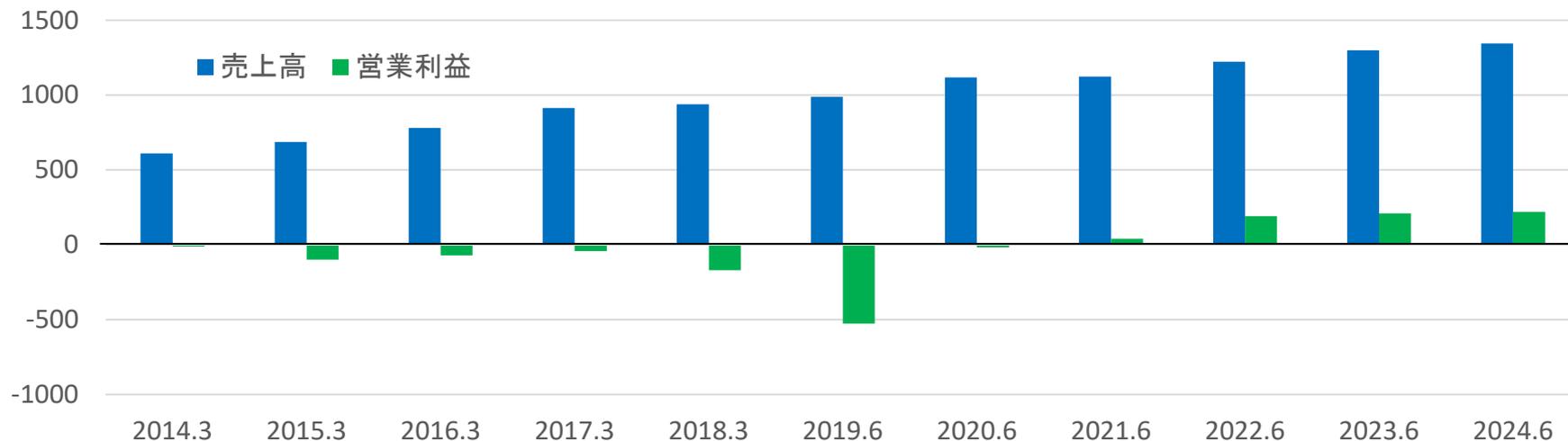
最先端のメタボローム解析技術とバイオ技術を

活用した研究開発により、

人々の健康で豊かな暮らしに貢献する

- 2001 ● 慶応義塾大学先端生命科学研究所、山形県鶴岡市に開所
- 2003 ● 創業（創業者：慶応義塾大学 富田氏、曾我氏）
- 2012 ● Human Metabolome Technologies America Inc. 設立
- 2013 ● 上場（東証マザーズ（現グロース市場）：6090）
- 2023 ● 創業20周年

(百万円)



本資料に含まれる将来の見通し等に関する記載は、現時点における情報に基づき判断したものであり、今後のマクロ経済動向、市場環境や当社の属するライフサイエンス業界の動向、当社の研究開発の進捗、その他内部及び外部要因により変動することがあります。

そのため、実際の業績が本資料に記載されている将来の見通し等に関する記述と異なるリスクがあることを予めご了承ください。